

# 中学校における「まちづくり学習」授業プログラム開発に関する基礎的研究

早稲田大学大学院 学生会員 大谷秀明  
パルフェ コミュニティー  
デザインオフィス 正会員 三輪千夏  
早稲田大学理工学部 フェロー 中川義英

## 1. はじめに

1992年の都市計画法改正に伴い市町村における都市計画への住民参加が事実上義務付けられ、これに伴い行政、まちづくり協議会、NPO\*<sup>1</sup>等により住民参加や合意形成の手法・制度が模索されてきた。しかし未だに住民参加・合意形成のシステムは確立されていない。この要因として、地域住民の地域・都市に対する情報、知識、関心の低さ、合意形成の過程には多くの時間と労力が費やされると同時に多くの経験と知識が求められること等が挙げられる。現在この様な経験や知識を積み重ねる場として、住民への「まちづくり学習」の必要性が問われている。

本研究は「子どものまちづくり学習」\*<sup>2</sup>を通し、長期的視点によりまちづくりの知識や経験を養い、まちへの意識の喚起を行うと共に、教育的視点として後の人間形成に役立つと考える。ここでは義務教育課程の中でも特に、思考力・行動力が発達し社会生活への準備段階として重要な時期である中学生期に注目する。

現在「子どものまちづくり学習」を行っている事例はごく少数であり、その内容も未だ確立されておらず早急に対応が求められる。この現状を踏まえ、本研究では中学校における「子どものまちづくり学習」の効果的カリキュラム・手法について検討することをねらいとしている。

本研究ではまず、市民参加の現状、既存プログラムの現状から「子どものまちづくり学習」課題の整理を行う。次に実際の授業では生徒の興味・関心、男女差、生活スタイルの違い等が授業の理解度に大きな影響を与えることから、まちでの行動・意識調査結果を踏まえ、中学生とまちとの関わりについて認識した上で考察を行う。

## 2. 現状から見た「子どものまちづくり学習」課題

### 2.1 市民参加の現状より

現在、市民参加は行政主導または一部の市民主導により行われているが、その形態は市のマスタープランへ反映された例から形式だけの例までと多様である。これは市民参加・合意形成の過程において未だ多くの問題を抱える為と考えられる。市民参加における問題点と、その対策としての「子どものまちづくり学習」における課題を以下に示す。

表 - 1 市民参加の現状と「子どものまちづくり学習」課題

市民参加の現状	「子どものまちづくり学習」課題
・市民の都市計画に関する学習が不十分である	・都市計画に関する知識を学ぶ必要がある
・市民の合意形成をいかにかはかるかが重要である	・合意形成の過程を経験する必要がある
・市民と行政とのパートナーシップをいかに作るかが重要である	・行政との様々な形での交流を行うことが後の相互理解へとつながる
・市民の積極的な参加は少なく、参加のきっかけ作りが重要である	・「子どものまちづくり学習」での活動を何らかの形で参加へとつなげることが必要である

### 2.2 既存プログラムの現状より

義務教育における「子どものまちづくり学習」の事例はほとんど無い為、ここでは主にワークショップ・環境教育で用いられているプログラムに着目する。これらのプログラムから見た「子どものまちづくり学習」課題を次に示す。

- ・既存の事例では単発のプログラムが中心であり、内容としては体験的なものが多いが、義務教育における授業として長期的な検討を行う為、体験的学習と知識的学習の両方をうまく組み合わせる必要があること。
- ・既存の事例では「まち学習」\*<sup>3</sup>についてのプログラムが大部分を占める為、「まちづくり学習」\*<sup>4</sup>についてのプログラム開発を行う必要があること。
- ・「まちづくり学習」のプログラムを考える上で、「まち学習」との関わりからその役割を明確にする必要があること。

## 3. 中学生とまちとの関わり

生徒の興味・関心、男女差、生活スタイルの違い等が「子どものまちづくり学習」授業の理解度に大きな影響を与えることから、東村山市立第七中学校1・2年生138名に「まちでの行動・意識調査」を行った。(1999.12.実施)対象選定の理由は、99年度の3年生の授業内において「子どものまちづくり学習」実験的授業に協力が得られたことから同校を対象とした。

### 3.1 まちにおける行動調査結果

各設問の解答結果(よく行く場所、好きな場所、嫌いな場所)をカテゴリー別に分類し、その結果を表-2に示す。これより、中学生のよく行く場所と好きな場所はほぼ同じ結果(商店街、公共施設)となった。これまで一般的に子どもの好きな場所は自然等が中心であったが、次第にまちの中の施設や商店などへ移り変わりつつある。これは今の中学生にとって普段よく行く場所が自分にとって居心地の良い場所であり、同時に好きな場所であるためだと考えられる。またここでは男女間の差がはっきりと現れた。よく行く場所・好きな場所は男子が主に(環境地、スポーツ施設、遊戯)、女子が(公共施設、商店街)となった。嫌いな場所は(公共施設、都市基盤、環境地)が主であり、理由は(道が狭い、汚い、灯りが無く暗い)等のまち自体に関する事他、(変な人がいる、怖い人がいる)等の人に関する事が多く挙げられていたことが特徴的であった。また学年が上がるにつれ(よく行く場所、好きな場所、嫌いな場所)が無くなる傾向があり、好き・嫌いに関わらずまちへの関心が薄れていることが分かる。

keywords: 子どものまちづくり学習、行動・意識調査、中学生とまちとの関わり

連絡先: 〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 51-15-11A

Tel 03-5286-3398 Fax 03-5272-9975

表 - 2 まちでの行動について

カテゴリー	よく行く場所（平日）（人）					よく行く場所（休日）（人）					好きな場所（人）					嫌いな場所（人）				
	1年男	1年女	2年男	2年女	合計	1年男	1年女	2年男	2年女	合計	1年男	1年女	2年男	2年女	合計	1年男	1年女	2年男	2年女	合計
A.環境地	2	0	2	0	4	2	0	2	0	4	4	1	4	2	11	1	0	3	1	5
B.公共施設	4	3	12	4	23	3	6	12	10	31	2	6	3	7	18	4	7	9	3	23
C.商店街	9	18	7	11	45	6	15	6	13	40	5	16	7	11	39	0	3	2	0	5
D.スポーツ施設	4	0	0	0	4	6	0	1	0	7	3	0	5	0	8	0	0	0	0	0
E.歴史	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
F.遊戯	3	4	5	3	15	4	8	4	3	19	7	3	6	2	18	0	0	1	0	1
G.都市基盤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	2	2	8
H.塾・習い事	3	2	3	5	13	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
無し	6	4	11	12	33	10	2	15	9	36	10	4	14	14	42	24	18	23	30	95

### 3. 2まちへの意識調査結果

各質問項目について4つの選択支（全くない、あまりない、たまにある、よくある）を設け、その解答結果を表-3に示す。これより、対象中学生の半数以上が（自然保護について、ゴミや資源の問題について、遊び場について、道路の広さや使いやすさについて、体の不自由な人の使いやすいまちについて、放置自転車について）多少なりとも考えたことがあると分かった。しかし各設問中で（よく考えたことがある）と解答した生徒は少なく、本当に身近な問題としてはとらえられていないと考えられる。

表 - 3 まちへの意識について

設問番号	質問項目	全くない（%）			あまりない（%）			たまにある（%）			よくある（%）		
		男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体
Q 1	あなたは自然保護について考えたことはありますか。	21	12	17	30	30	30	40	45	42	9	13	11
Q 2	あなたはゴミや資源の問題について考えたことはありますか。	16	6	11	24	33	28	51	46	49	9	15	12
Q 3	あなたは公共施設の利用のしやすさについて考えたことはありますか。	23	22	23	50	43	47	20	25	23	7	9	8
Q 4	あなたは商店街の利用のしやすさについて考えたことはありますか。	29	21	25	40	42	41	21	25	23	10	12	11
Q 5	あなたは運動できる場所や施設が十分にあるか考えたことはありますか。	21	10	16	26	46	36	26	27	26	27	16	22
Q 6	あなたは寺や神社や遺跡などについて考えたことはありますか。	40	34	37	37	43	40	20	15	18	3	7	5
Q 7	あなたは遊び場について考えたことはありますか。	7	6	7	20	19	20	40	42	41	33	33	33
Q 8	あなたは道路の広さや利用のしやすさについて考えたことはありますか。	9	4	7	30	27	28	31	33	32	30	36	33
Q 9	あなたはバスや電車の利用のしやすさについて考えたことはありますか。	19	15	17	40	48	44	21	28	25	20	9	15
Q 1 0	あなたは体の不自由な人が利用しやすいまちについて考えたことはありますか。	19	7	13	44	30	37	21	43	32	16	19	18
Q 1 1	あなたは放置自転車について考えたことはありますか。	21	7	15	36	34	35	31	36	34	11	22	17
Q 1 2	あなたはまちの景色やデザインについて考えたことはありますか。	36	19	28	37	52	45	16	16	16	11	12	12

### 4. まとめ

まちでよく行動をする生徒は行動範囲及び生活環境等の要因により、まちへの意識に対して非常に影響を受ける。これに対してまちであまり行動をしない生徒は、その生活環境に関わらずまちに対してあまり意識を持たない。このことから、まちへの関心の低い生徒にいかに関心を与えるか、その工夫が授業の初期段階で必要である。これについてはまちへ出ての体験的な学習が効果的であると考えられるが、事故等の責任や補償の問題から実際に行うまでには多くの課題が残されている。そこで男女それぞれの興味（男子：環境地、スポーツ施設、遊戯）、（女子：公共施設、商店街）をどの様に活かしていくか、都市計画における各テーマ（表-2中のカテゴリーを参照）をどの様な順序で進めるかが今後の課題となるのではないかと。また中学生は各施設や場所を個々（自分の目的の対象）としてはとらえているが、まち全体の中での各施設や場所の役割まではとらえられていない。これは「まちづくり学習」的な視点でのアプローチが欠けていると思われる。

以上のことから、「まち学習」と「まちづくり学習」のそれぞれの意味を明確にし、この両者をいかに結びつけるか、一連のプログラムとして更なる内容検討が求められる。

#### 【補注】

\*1 民間非営利組織 (Non Profit Organization) の略称。

\*2 本研究での「子どものまちづくり学習」とは、「まち学習」と「まちづくり学習」の両方を含む、広い意味でのまちづくり学習とする。

\*3 本研究内では「まちに慣れ親しみ目を向けることにより、まちの新たな一面や問題に気づき、まちについて考える学習」と定義する。

\*4 本研究内では「まちとその他様々な事物との関わりに目を向け、まちの問題解決・計画の仕方について考えると共に、自分たちでまちを作るという視点を持ち考える学習」と定義する。

\*5 東村山市の概要：東京都心より30 Km北西、東西5.83 Km、南北3.09 Km、総面積17.17 Km<sup>2</sup>の都市。荒川から多摩川にかけて広がる武蔵野台地の中心部にあり、北西部に標高約110 Mの狭山丘陵、約107 Mの多摩湖がある。1998年10月時点、人口138,994人。

#### 【参考文献】

- 1) 「子どものまちづくり学習」支援体制開発のための一考察 三輪千夏 土木学会学術講演会後援概要集 1998.10
- 2) 小学校におけるまちづくり学習のあり方 三輪千夏 土木計画学研究・講演集 21(1) 1998.11
- 3) 環境教育のための人づくり・場づくり H4年度環境庁委託業務 子ども達に対する環境教育の充実に関する体系的調査報告書 財団法人 日本地域開発センター 1993.3
- 4) 子供の為の都市計画学習のあり方に関する研究調査 報告書 (財)名古屋都市センター (社)日本都市計画学会 1995.3